

令和7年(2025年)度行政評価シート【個表】

令和7年6月20日

評価対象事業		評価者	市民健康課長 石黒知美	
健福-45	救急医療対策事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	市民健康課
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	4-(1) 健康福祉	施策の方針	4-(1)-②健康長寿社会の構築

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市民等の急病などに対応するため。
効果	休日・夜間の急病に迅速な対応を行う。

2 令和6年(2024年)度を実施した事業の概要

・休日、夜間に材木座保育園跡地の休日夜間急患診療所で小児科を含む内科の急患診療を行った。また、ゴールデンウィーク及び年末年始に加え、繁忙期(12月～2月)の日曜日及び祝日も二科体制での診療を行い、小児救急体制を充実させた。感染症対策として、新型コロナウイルス等流行時には、医師、看護師及び事務職員を増員し診療した。
 ・緊急の入院や手術が必要な患者に対し、医療体制整備を委託し、休日、夜間、土曜に内科・外科の診療を行った。
 ・市民からの医療機関の問い合わせに対し、医療機関案内を行った。毎夜間(23時～翌朝9時)、土曜日(9時～18時)については、音声自動応答により救急医療機関の案内を行った(かながわ救急相談センター#7119の稼働に伴い、10月31日で終了)。
 ・鎌倉市内の救急医療機関において、医療費の負担能力に欠ける外国籍市民に係る救急医療に関し発生した損失医療費については、申請がなく、補助金の交付は行わなかった。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度	
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)		
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)		
01	休日夜間急患診療所事業	・休日夜間急患診療所 ・小児救急医療対策 ・二科体制	休日夜間急患診療所の小児科医配置率(%)	60.4% / 100%	100%	100%	60.4%	
02	二次救急医療確保事業	・病院群輪番制 ・単独医療機関制	-	36,875 / 38,264	90,894	91,487		
03	夜間医療機関案内事業	・救急医療案内	-	154 / 264	-	0		
04	外国籍市民救急医療助成事業	・外国籍市民救急医療助成事業 ・外国籍市民救急医療対策費レセプト審査手数料	-	0 / 3	-	3		
05				/				
06				/				
07				/				
08				/				
09				/				
10				/				
		財源内訳	国県支出金	4,410 / 5,030	5,071			
			地方債	/				
			その他特定財源	/				
			一般財源	123,512 / 124,395	116,614			
			事業費の合計(千円)		127,922 / 129,425	121,685		
			人件費(千円)		2,360	2,561		

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.6	0.3	0.5	0.3	0.3	0.3
会計年度任用職員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	休日夜間急患診療所事業	小児科医の数が不足しているため、前年同水準にとどまった。	休日及び夜間の内科・小児科の救急医療体制を整備し、急患に対応することで、健康長寿社会の構築に寄与した。	小児科医の配置を増やせるよう、関係機関と調整していく。
02	二次救急医療確保事業	県内他市における同事業について、複数の市町村で共同で実施をしているケース等、実施体制が異なる面があり、指標となるベンチマークの設定ができない。	休日、土曜日及び夜間における緊急の入院や手術が必要な患者に対し、内科及び外科の医療体制を整備することで、健康長寿社会の構築に寄与した。	-
03	夜間医療機関案内事業	案内数等を指標にして評価することは、事業の性質に馴染まないため、指標は設定しない。	市民の医療機関の問い合わせに対し、医療機関案内を実施した。夜間には音声案内により、救急病院の案内をすることで、健康長寿社会の構築に寄与した。	かながわ救急相談センター#7119が神奈川県全域で利用できるようになったため、事業終了。
04	外国籍市民救急医療助成事業	対象者が限定されており、助成数等を指標にして評価することは、事業の性質に馴染まないため、指標は設定しない。	実施はなかったが、外国籍市民の救急医療費における不測の事態に対応する事業として、健康長寿社会の構築に寄与すると考えられる。	-
05	0			
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	1 実施済み
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済 ○-2 適正な受益者負担を導入している
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 △-2 市民等と協働して実施する事業はない
		協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】 拡充 改善・変更 現状維持 縮小 休止・廃止
引き続き安定した救急医療体制の確保に努める。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	休日夜間急患診療所の小児科医配置率(夜間)						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
小児科受診者数が年々増加している傾向にあり、ニーズが高まっていると考えられるため	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	実績値	60.0	60.1	59.7	60.3	60.4		
	達成率		60.1%	59.7%	60.3%	60.4%		

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	令和6年度休日夜間急患診療所の小児患者(上段:小児患者数/下段:患者のうち小児患者の占める割合)							
団体名	鎌倉市	藤沢市	平塚市	逗子市				
他市実績	776人	7,404人	6,394人	1,661人				
	36.0%	33.5%	28.8%	24.4%				

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	(休日夜間急患診療所)休日夜間急患診療所における小児患者の割合は他市よりもやや高い。小児科診療のニーズに対応するため、今後も高い配置率を維持する必要がある。
----------------------	--